

## 報道機関の皆様へ

本日はお越し下さりありがとうございます。

いつも地元に関心した報道をして下さることを心から感謝いたします。

### ■取材に関するお願い

講師及びパネルリスト、司会の静止画及び動画撮影等については問題ありませんが、ご来場者の方々の撮影及びインタビューはご遠慮下さるようお願いいたします。

本日のプログラムが終了いたしましたら、ステージ付近で登壇者へのインタビューの場を設けます。

パネルディスカッションのパネリストは皆、大切な人を亡くす体験をしています。パネルディスカッションで、パネリストが話した家族の死因について記事にされることは問題ありません。しかし、本日は登壇者の個人的な経験についての取材については、控えさせていただきます。死因を限定せず、遺児となった子どもたちを支えるための活動をより多くの人たちに知っていただくためです。また、そのために皆さまのお力をお貸しいただけたら幸いです。ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

### ■「子どもグリーフサポートの場を浜松にも」準備委員会

当会では、静岡県でも大切な人を亡くした子どもたちへのグリーフサポートプログラムを実施したいと、2017年5月から準備を開始いたしました。「子どものグリーフを支えるワークブック～場づくりに向けて」NPO法人子どもグリーフサポートステーション（編著）、高橋聡美（監修）を使い、不定期に勉強会を実施しており、11月には専門家を招きファシリテータ養成講座を実施する予定です。現在のメンバーは、男性3名、女性6名です。

### ■子どものためのグリーフサポートプログラム

プログラムは、2018年春にスタートすることを目標にしています。実施会場は浜松市内を予定していますが、浜松市以外の子どもたち（小学生と中学生を予定）も対象になります。また大切な人の死因を問うこともありません。1 dayプログラムとして、遊びを通して、子どもたちが自分たちの気持ちを素直に表現できる場を年4回実施する予定です。また、保護者のためのつどいも検討しています。プログラムの会場探し、協力者、活動を実施するための募金活動はこれから行っていきます。

## ■登壇者紹介

### ■講演「死別体験をした子どもを支えるために～グリーフと自尊感情の育み～」

講師：高橋聡美（たかはしさとみ）

防衛大学の精神看護学教授（医学博士）、NPO 法人子供グリーフサポートステーションアドバイザー

### ■パネルディスカッション

座長：西田正弘（にしだまさひろ）

あしなが育英会東北事務所長、NPO 法人子どもグリーフサポートステーション代表

パネリスト：

佐々木浩則（ささきひろのり）

「子どもグリーフサポートの場を浜松にも」準備委員会代表、NPO 法人グリーフサポートリンク理事

新海満理奈（しんかいまりな）

子どもグリーフサポートプログラムファシリテーター

## ■グリーフとは

喪失体験に伴う愛惜や悲しみなど様々な感情です。親など大切な人との死別を体験した子どもは自覚や表出・制御の難しい、生きづらさを抱えています。時間を経て子どもたちの心は癒されると周囲は思いがちですが、悲しみ、恋しさ、怒りなどさまざまな感情は消えることはないでしょう。しかし子どもたちは、そういう気持ちを抱いたままでも、自分らしく未来を切り開いていくことはできます。そのために、子どもたちの心に寄り添い、子どもたちが自然なまま安心して様々な感情を表現できる場を作ることが必要です。

福島（福島市）、岩手（陸前高田市と釜石市）、宮城（仙台市）では、東日本大震災で大切な人を亡くした子どものためのグリーフサポートプログラムが NPO により実施されています。また、日々の生活の中で、子どもたちは、病気や事故、自死・自殺で大切な人を亡くすこともあります。こうした子どものためのグリーフサポートは、一部の地域だけで実施されているのが現状です。

■この活動の問い合わせ先：sasaki@izoku-center.or.jp

<https://gskh.jimdo.com/>



心ある報道機関の皆さまのお力で、私たちの市民活動を広げることができるのだと思います。感謝いたします。

どうぞよろしく願いいたします。

「子どもグリーフサポートの場を浜松にも」準備委員会（広報担当：戸倉）